

日通など4社でモーダルシフト、物流環境大賞を受賞

Edited By LogisticsToday On 2017/07/03



▲右：表彰状を受け取る日本通運の吉岡執行役員

日本通運は3日、日本物流団体連合会(物流連)主催の物流環境大賞で、アサヒビール、麒麟ビール、日本貨物鉄道(JR貨物)の4社協働による鉄道を利用したモーダルシフトの取り組みが「物流環境大賞」を受賞したと発表した。

1月にアサヒビールと麒麟ビールは、環境負荷の低減とトラック不足などの社会的課題の解決を目的に、石川県金沢市に日通が運営する共同配送センターを開設、関西エリアの工場からの鉄道コンテナによる共同輸送を開始した。

日通は、発駅の吹田貨物ターミナル駅(大阪府吹田市)で両社製品を受託し、JR貨物が関西-北陸間の往復輸送量の差により発生する空コンテナを有効活用し、鉄道で輸送した。

年間1万台相当の長距離トラック輸送を鉄道コンテナにモーダルシフトし、2700トンのCO2削減を実現する見込みとなっている。

この取り組みが評価され、6月30日に物流環境大賞として表彰された。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/293848>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.